

市立四日市病院は、築後30年を経過し、建物や施設の老朽化への対応と療養環境の改善のため、平成22年4月から病棟増築・既設改修工事を行ってきました。救命救急センター（ER）の増築、外来診察室の改修および手術室などを備えた新病棟の増築工事を行い、その後、既設病棟の全面改修工事を行いました。昨年12月末には、病棟の改修を終え、療養環境が大幅に改善されました。

救命救急センターの機能強化と外来診療環境の改善

救命救急センターの増築を行い、MRI室、処置室などを増設し、救命救急センターの機能の強化・充実を図りました。

外来についても、診察室を増室したほか、中待ち合いを解消してプライバシーを確保するとともに、エレベーター1基を増設するなど、診療環境が改善されました。

最新設備を整えた新病棟

平成24年5月に供用を開始した新病棟は、地震災害時などにも重要な病院機能が維持できる免震構造の建築物です。病室（4人床および個室）のほか、東海地区初のハイブリッド手術室※①（1室）を含む手術室（12室）や、新生児集中治療室（NICU※②）や母体・胎児集中治療室（MFICU※③）などを備えた周産期母子医療センターを整備するとともに、最新設備を整えたMRI室、中央材料室および厨房なども配置しています。

※①カテーテル手術などの内科的手術と、開腹手術などの外科手術の機能を併せ持つ手術室で、緊急時への対応が迅速に行えるため、救命率の向上につながる

※②早産児、低出生体重児、または何らかの疾患のある新生児を集中的に治療、管理する治療室

※③重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、出産の危険度が高い母体、胎児に対応するための設備と医療体制を備えた治療室



東海地区初のハイブリッド手術室



新生児集中治療室（NICU）

既設病棟も療養環境を改善

昨年12月に既設病棟の全面改修も終え、新病棟と同様の療養環境を提供しています。新病棟と既設病棟を合わせた、病院全体の病床数（568床）はそのままで、既存の6人床病室の4人床化や個室の増床、トイレなどの設備の更新などを行いました。



4人床化した病室

4年間にわたり、工事期間中は、入院患者や来院者の皆さんには、大変ご迷惑をお掛けしましたが、皆様のご協力により病棟改修および移動を終えることができました。ありがとうございました。